



平成27年6月15日

2	4	5	6	7	8
面	面	面	面	面	面
公民館の歴史	みんなで仲良く・みんなの宝	スポーツ・情報	女団連記念事業	ひと・すぼっと	こどもの詩・俳句・短歌
					上新井区民ふれあいツアー
					消防団ふれあい感謝祭
					べんべん草



「袋かけ」(上片桐)

おいしい梨になるよう願いを込めて、実一つひとつ丁寧に袋をかけていきます。

私は、平成26年4月より、公民館主事として、地区公民館の役員、本館部員の皆様と一緒に活動をさせていただき、感想を書きたく思いました。この活動は、地域の皆様と密接な位置にあり、とても新鮮で活動を共にできたことがとてもうれしく思っていますし、人とのつながりがこれまで以上にできたことが財産になっていきます。

現在、私自身は隣町に居住しており、その町でも町民として公民館活動にお世話になっております。公民館役員の任期は、各地区(自治会)より選出となり、1期2年と決まっていますので、任期中は地区の代表として全うする役割があります。これまでに、本館の教養部、体育部、編集部の3部長と分館で役員をやらせていただきました。部長というのには名ばかりで、其々の部員の皆様にご協力をいただき何とか部の行事が終了したことを常々ありがたく感じてきました。

主張 1年間の

公民館活動を振り返って

やはり、公民館活動はみんなと協力し合って一つのことを作り上げていくことが大切なことだと感じました。

「松川町の公民館活動は盛んだに」という声は、周辺町村から言われていることです。実際、1年間公民館主事としてお世話になり、地区公民館行事を見ますと、地域の皆さんが行事内容を考え、改良し、地域の皆さんが参加できる活動の場を提供していることは、つくづく感心しています。

「本館専門部や町公民館の活動としてはどうだろうか。」と考えた時に、地域の皆さんと集う場、一緒に地域問題を探り、共に学習や行事を行っていくことは必要なことと思います。また、松川町公民館の特徴として、本館専門部員の任期が長いことは、専門的知識を持っている人たちが学習はもちろんではあります。が、行事等でも生かされています。

今後一緒に頑張ります。

公民館主事 福島 俊美

地域課題をみんなで考えあう拠点 ～様々な研究集会在開かれる～

40年代後半から、地域の様々な問題に対して解決を図っていかうと、様々な立場の住民の主体的な集会在現公民館大会議室や当時併設されていた講堂で行われました。その集会的様子を当時の館報が詳しく伝えていきます。昭和58年に開かれた研究集会在館報から振り返りたいと思います。

様々な問題をみんな で考えあう

第18回婦人集会在

8月21日 参加者250名



○各組織を通じ144の問題が出され、整理して8分科会で行う。

○分科会で「日赤病院の充実」、「若妻会が取り組んでいる子どもの生活」、「主婦の労働やつきあいの見直し等くらしの問題」、「障害者へのボランティア」、「空き缶や洗剤等環境問題」、「食事作り等家事の問題」等の協議を行う。また、特別分科会として戦争体験を聞く。

第7回健康を考える集会在

12月12日 参加者180名

○年々参加者が増加して、180余名。そのうち秋田、静岡など町外の参加者40余名。

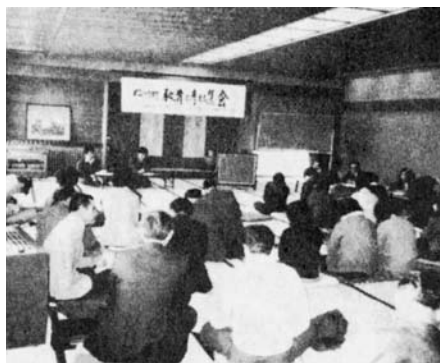
○「蓄えてきた学習の力で、自らの暮らしを変えていこう」をスローガンにして、健康づくり運動の原点とも言うべき「食」の問題に焦点をあてたシンポジウムを行う。

午後は「子どもの食事の実態調査」「塩分学習の取り組み」「農繁期の食事作りと休憩」「井戸水の実態調査」「各職場の定期健康診断」など9つの実践発表が行われ協議される。



第2回教育を考える集会在

1月23日 参加者150名



今回の趣旨やねらい

「教育に関する悩みや問題を具体的に出し合って考える」「第1回集会在での話し合いを更に深める。」「地域ぐるみで教育するための取り組みを進めようとするムードを盛り上げる」「各組織グループでの学習

を前進させる方向を確認すること」を趣旨とし、それぞれ年別で分科会を行う。

全体会では、モーター問題で絶対反対・阻止が決議される。

第1回福祉を考える集会在

2月27日 参加者120名

○4人の方から「障害者の立場から」「障害者の親の立場から」「寝たきり老人について」「婦人集会在から」の意見発表があり、意見発表をもとに5つの分散会で協議が行われる。

○「全体会では意見を発表する人が相次ぎ待ち望まれた集会在たつたことが伺われた。最後に、これから年1回継続して集会在開かれることが決められ、熱っぽい雰囲気の中、時間をオーバーして閉じられた。」館報より抜き書き



公民館の歴史②

第20回公民館研究集会

2月6日 参加者数記述なし

○分散会で話し合われた主な内容

教育「子は親の鏡」、健康「学習課題の共有化」、環境「息の長い活動が必要」、農業「農業を考える集会を」、社会体育「試合優先から体力づくりへ」

○全体会で討議された内容
・運動公園にスケート場を併設

・モーター問題は住民パワーで絶対阻止



当時、大きな集会在5つ、参加延べ人数およそ90名で行われており、その規模、エネ

ルギーに驚かされます。

当時の集會までに至る流れをみると、まず、集落単位の小グループで地域問題の話し

合いの場が数多くもたれています。また、小グループの取り組みを深めるために話し合いの内容と繋がりのある様々な学級や講座が開かれています。そして、集會は、各地域やグループで出されている地域や生活の課題を結び付けて町全体の課題として考えあひその解決をはかろうと位置づけられていました。集會に至るまでの道筋が、系統的、構造的な学習形態になっており、そのために、多くの住民を巻き込んでいたのではないかと考えられます。また、当時の方々の「暮らしをなんとかしよう」「よりよい町にしよう」とする強い思い、願いが根底にあったからだと思います。さて、当時開かれた集會で話し合われた内容をみますと、健康、食、暮らし、労働、環境、産業、障害者、ボランティア、学校教育、社会教育、介護など多種多様な問題が取り上げられています。また、1つの問題を幾つかの集會で協議を行い、重層的に課題解決に向けて考えあつて、多くの

方々に課題が共有されていたので、実践に繋がりがやすかつたと思います。

また、分科会では「農繁期の食事作り」「井戸水の実態」「付き合いの見直し」等々具体的で生活に根付いた論議がさがれていて、自分たちの生活を

集會につながる学習会がたくさん行われた

元町栄養士 林 竜子さんのお話から

今回、町の栄養士さんとして、永年にわたって健康問題に取り組んでこられた林竜子さんに、以前のお話しを伺いました。

林さんが松川町担当の地域栄養士さんとして活動を始めたのは42歳の頃。

当時、高血圧・心臓病・貧血の三疾病予防のため、検診などとつなげての学習会をしていたそうですが、小さな子ども頃からの習慣が大切ではないか。ということ：

お母さんと子どもが一緒に離乳食指導、発達に合った食物指導など、料理教室がそのまま学習の場となるなどしたようです。

又、青年学級という学習会では、男女一緒に料理教室も開かれたそうで、季節感のあるものではクリスマスケーキ

真摯に見つめ、考えあう姿勢は今も学ぶべき姿かなと思います。また、「モーター問題」を幾つかの集會の全体会で取り上げ、建設阻止の姿勢を明確にしています。社会問題を全面的に受け止め動き出しています。

も作つたそうです。

なにか林さんのお話しを伺っていると、その当時の様子が目に浮かんでホノホノとした気持ちになりました。

今だったら、さしずめ合コンといったところでしょうか。食を通しての学習会も、これからの子どもが大きくなった時のことを考えて、親子会から老人クラブなど多岐にわたって開かれるようになっていきます。

今の地区公民館の事業活動を考えれば、現公民館が建設されて以来活動のひとつひとつが地域へと広がっていったのは確かなことじゃないかと、林さんは考えていらつしやるそう。お話ししているうちに年齢に関係なく元気に活動を続けていらつしやる林さんからイッパイの力をもらった気がしました。

しっかりと理念をもって行われた集会

当時の館報には、集会の趣旨、意義がどの集会にも位置づけられています。

松川町の婦人集会の意義

* 館報25号昭和57年発行「主張」より抜粋

- ・ 各種組織の日常活動を基盤に据え横の連携が図られている。
- ・ 集会の中で日頃の活動が点検され共通の課題が確認されている。
- ・ 自分たちで解決できる活動の範囲を広げてきているという実践を生み出している。
- ・ 運営が婦人たちの力で進められている。

福祉の問題は、地域の課題である。

館報22号昭和58年2月発行 主張「福祉を考える集会を成功させよう」より抜粋

先日の婦人集会の折にボランティアを中心とした福祉活動推進の意見が出された。ボランティア活動を通して他人の問題を自分の問題として学習していく重要性、そして今度の福祉を考える集会―地域の福祉課題は自分たちの手で解決しようとする動きは実に地域に根ざした社会教育―公民館の目的と一致する部分が多い。この福祉を考える集会に地域住民の積極的な参加を得ながら福祉の問題を地域の課題としてこの福祉教育がいかに設定されるか考えていきたい。

5つの集会の趣旨・意義には共通内容を見出すことができます。「身近な様々な問題を自分や地域の人々の問題ととらえる」「問題について主

体的に調べ学習する」「仲間と考え合う」「解決に向けて自分たちで行動し、その範囲を広げていく」等が見えてきます。

これらの内容は、社会教育ばかりでなく学校教育にもつながる学び（教育）の本質ではないかと思えます。30〜40年ほど前に、このような質の高い学びが現公民館を拠点にしておこなわれていました。さて、昨年末から「地域創生」が取り上げられ、具体的な施策も見られるようになってきています。確かに行政の力も必要ですが、現公民館で行われていた住民主体の取り組みが改めて必要になってくるのではないかと思います。

現公民館での思い出

松川町中央公民館の新設が決まったことで、今の公民館が取り壊されることになりました。

昭和46年に完成した当時は“町の福祉センター”と呼んでいて公民館という意識は薄かったように憶えています。

一番、公民館としての印象が強い出来事。それは中学の同級生の結婚式が行われたこと。体育館で会費制、新郎新婦の友人達が実行委員をつとめるアットホームな式でした。

結婚して地元に残り、若妻会の役員になった時、何か体を動かすことを、と公民館を訪れました。

その頃、ソフトバレーボールが普及し始めていて、道具をお借りできるかと訪ねたのですが…。対象年齢が高目に設定されていて、若い人は×^{ダメ}だったのです。(若妻会ですものね)

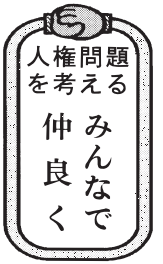
松川町中央公民館の編集部部員をお受けしたのが平成9年。公民館活動は、私にとって本当に楽しく有意義なもので、続けられるうちは…と思っていますが、部員の平均年齢を上げるのは多少気が引けます。

何はともあれ、新公民館を楽しみに活動に励みたいと思います。

編集部 宮下 和子



現在の研究集会



さんかん日

中央小3年 荻原かえで

先週の金曜日に、さんかん日がありました。

さいしよにわり算のいみを教えてもらって、その後、ジュースをくみました。さいしよは、あまり手をあげられないかなと思っていただけ、たくさんあげられました。わり算のいみはよくわかりました。

さいごに、お母さんに、「手をあげてよくこたえられたね。」

と、ほめられました。さいしよにお母さんが来る



とき、さんかん日とても楽しみだなと、ドキドキしました。お母さんはとてもほめてくれたので、とてもとてもうれしかったです。こんどのさんかん日も楽しみです。

じゃんけん

中央小3年 とのうち かんせい

今日、学校でじゃんけんをやりました。

はんとはんでじゃんけんをやつて、かつていきます。

2はんは、さいしよに1ぱんとじゃんけんしたら、ゆずはさんとこみさんがゲームを出して、ぼくとれおんくんがパーを出してしまいました。(班でみんな同じものを出さないと負けというルールでゲームを行ったので、この時点で負けになってしまいます。)

ぼくは、ゆずはさんとこみさんがゲームをだしたのでびっくりしました。2回目はつきこそかちたいと思いました。こんどはせんぶのはんといつせいにやりました。1回目からよしひろくんのはんがぬけて、2回目もかつて、3回目もかちました。

こんどはちゃんとだせたので、すごくよかったです。

春の俳句

3年生

たんぼぼの

わたげは空に

たびに出る



えん足は

とおい場所にも

行くのかな



白い雲

みるみる形

かえていく



五月はね

雨ふらないで

ほしいです



みんなの宝 松川町指定文化財

第1回

松川町では県指定2点、町指定31点、計33点が「指定文化財」になっています。これらの文化財を始め、町には後世に残すべき資料が多数存在します。文化財を大切に守り、次世代に継承していくために「みんなの宝」と題し、町の文化財を紹介していきます。

第1回は、昨年度指定文化財を惜しくも解除された「峠の赤松」を紹介します。

生田上峠、標高984mの地にあり、コミュニティバス一本松のバス停の横の小高い山に、胸高周囲7.5m、樹高約15m、三本に枝分れていた「峠の赤松」と呼ばれる、長野県内屈指の大きさをもつ立派な松が昭和56年11月1日、町の天然記念物として指定されました。



ありし日の峠の赤松

上峠の下沢昇さん、松下敏彦さんから峠の赤松のお話を聞きしました。

この地域では「一本松」と言うそうです。大正から昭和30年頃までお蚕様を盛んに飼育していた時分はこの地で蚕玉様のお祭りをしていたそうです。又、松の根元に山の神が祀られており、大正から平成の初め頃まで毎年お祭りをしていました。地域の皆さんにとつてここは集う場所であり、まさに峠の象徴でした。お話を聞きますと、赤松は以前建築用材として使われていたにも係わらず、伐採されずに山の神の御神木として、地域の皆さんが大切に護ってきました。だと実感しました。

平成25年5月31日の昼間、南に大きく枝を張つて五百年余、風雪に耐え、峠の一番上から我々を見守り続けてきた赤松が、何の前触れもなくゆっくりと倒れ、長い一生を終えました。



現在残る株

資料館 宮崎 久美

お友達と一緒に楽しく
ダンスしませんか？

ミニパッション

- 日 時 毎月第2・4木曜日 16:30~17:30
- 場 所 中央公民館 学習室 (7月からは町民体育館)
- 会 費 1ヶ月 (2回) 1,000円 (イベント出演による変動あり)
- 対 象 保育園児
- 持ち物 上履き・水筒・タオル
- 主なステージ 7月 あらい祇園祭・清流苑祭
11月 町民文化祭 各地区芸能祭 等
お問合せ先 中央公民館 電話36-2622

体を動かして
季節を感じるスポーツ

松川町ゲートボール連盟 春季大会

4月13日(月)に松川町ゲートボール連盟春季大会が開催されました。

結果は次のとおりです。

- 優勝 長峰
- 準優勝 名子
- 第3位 宗源原
- 第4位 福与1
- 第5位 福与2

女性団体連絡会記念事業

夢見る わたしたちの 第一歩

5月21日、松川町女性団体連絡会総会の記念事業として、若者たちの未来トークVol.1「夢見るわたしたちの第一歩」と題したトークイベントが開催されました。今、松川町に住む若者たちがどんなことを考え、どんな夢を持っているのか。会場に足を運んでいたみなさんと一緒にどんな見交換し合いました。

今回、若者たちの代表として出演したメンバーは、元豊丘村地域おこし協力隊の杉山幸子さん①、中央公民館体育部の鈴木晶さん②、松川町地域おこし協力隊の八代寛司さん④、平成26年度成人式実行委員の中島李野さん⑤の4人です。

この4人の中にも町外から

転入してきた方がいたり、ずっと地元に残っている方がいたり様々な面から松川町をみられるという点も、今回のイベントをさらに盛り上げてくれたのかもしれない。

始めにお話しされた鈴木さんは、中・高生時代、県道沿いに気軽に行ける飲食店がないかとずっと思っていたそうです。そして、高校を卒業後、様々な経験をし、自分のやりたいことや思いを地元の方に話している中で、「飲食店をやってみないか」という声があつたそうです。また、町外から観光などで松川町を訪れる方からは、「信州そばが食べられるところがほしい」という声もあり、せっかくの機会を活かしてみようと思いました。

現在鈴木さんは何年先になるか分かりませんが、飲食店を立ち上げるためそば打ちの修行中だそうです。会場からは「おそば屋さんができるのを楽しみに待っています」などの声が聞かれました。

次に中島さんは平成26年度松川町成人式実行委員として活動し、感じたことを話されました。実行委員になったということがある程度、自分た



ちの意見が通るものだと思っ
ていました。しかし、実際には毎年決められたことを同じように行い、実行委員は敷かれたレールの上を走るだけというのが現実でした。「こんなことしてみたい。」という成人式に対する夢がありましたが耳を傾けてもらえず、悔しい気持ちを抱いたまま人生で一度きりの成人式が終わりました。しかし、中島さんはこれから先、自分と同じ思いをする新成人がいてほしくないと思ひ、今回のトークイベントに参加し、少しでも新成人たちに寄り添った成人式ができるよう手助けしたい、と語ってくれました。

続いてお話しされたのは地域おこし協力隊として活動していた杉山さん、地域おこし協力隊として活動を始めた八

代さんです。まず始めに会場からは、「地域おこし協力隊とは何ですか？」という質問が寄せられました。協力隊とは地域が求めるミッションを成功させるまたは、その地域に貢献するための活動を行う組織だそうです。杉山さんと八代さんは「協力隊を親しく思っ、大いに活用してほしい。」と話していました。地域の方と一緒に協力し活動していくことで目に見えるものはもちろんですが、見えないものを形に残したりすることが少しでも地域貢献に繋がればと話されていました。

今回のトークイベントでは大切なことがたくさん発見できました。若者たちの思いや人との繋がりが、そして少なからず会場にいた皆さんには若者たちの思い描く夢が伝わったのではないのでしょうか。これからの松川町をもっといい町にするためには、町民一人一人が同じ気もちで同じ方向に向かって進まなければなりません。その第一歩としてまずは、若者たちの声に町が耳を傾けながら、昔からの伝統を守りつつ、これからの時代に合った町づくりが必要なのではないのでしょうか。



たくさんの方に気軽に足を運んでもらえる図書館に

図書館司書 青木 貴子 さん

松川町図書館の司書としてお勤めの青木貴子さん。司書の募集ではなかったが配属されたのが図書館。元々、司書の資格は持っていらして、ま



さか資格が生かせるとは思ってもいかなかったとのこと。今までは東京で書店関係のお仕事をされていたそうで、本に関連しているので経験を生かせそうと話してくれました。

「司書はおもしろいけど難しい。子どもの利用が多いので子ども向けの本や読み聞かせのことなど、もっと勉強しなくてはと思います。今年なら善光寺ご開帳など特集コーナーを見て『いいね』って言ってもらったり、求めている本を提示すると嬉しかったと言っ

てもらえるとやりがいがある。」と話してくれました。

大人の方の利用が少ないので、雑誌など読むこともできませんし読書に限らずに興味を持って気軽に図書館に来てほしい。話題の本など興味のあるような本を重視し取り入れていきたいと抱負を語ってくれました。

探している本や調べ物などあれば図書館に足を運んで聞いてみてはどうでしょう。きつとやさしく親切に探して教えてくれると思います。

すぽっと

長野県体育協会 団体の部「有功章」を受賞

このたび松川町体育協会が、長い歴史にわたり活動及び体育振興に貢献されたことが、県から表彰され有功章を受賞されました。

昭和37年に運動から遠ざかっている方たちを含めた幅広い活動展開の必要性を感じ、町内の体育クラブを主体として体育クラブの発展と一般の人たちへの体育普及を目的とし、当初は10クラブで発足さ

れたそうです。創立から52年がたち、現在21クラブ中15クラブが活動されています。

町としては、「町民ひとり1スポーツ」を唱えるなか、少子高齢化やスポーツ離れの傾向から競技スポーツの専門である体育協会へ所属する人員が減少傾向になってきていることが課題としてあるようです。

平成25年に50周年を迎えま

した。今後「松川町体育協会発足50周年を確かな節目にして行こう!!!」をテーマに、町民の体力向上とスポーツ振興に協力し地域のつながりを広げ地域の期待や時代の要請に応え、21

世紀を担いゆく人材の育成をめざした活動に期待が膨らみます。



こころの詩

もみまきの おてつだい

中央小3年

溝口 あおい

今日、もみまきの

おてつだいをしました。おてつだいにいったら、お母さんに、

「はごはんて」

と言われました。お母さんはマツトをはこんでいました。

「それなんのマツト。」

と聞いたら、

「エースマツトだよ。」

と教えてくれたので、さわつてみようとしたら、お母さんに、

「〜すりがついているから、

さわつちゃいけないよ。」

と言われました。

つぎに、お父さんに言われていったら、すくく大きなきがいがありました。

さいごに、おそつじをしました。

「きたないところをきれいにするよ、気もちがよくなるよ。」と、お母さんに言われました。

俳句

鋤柄 郁夫(宮坂)

夏のれん大和ことばの美しき
果てしなき禅問答や冷奴

地球てふ箱庭めぐる自衛権

朝顔の宙にワルツを奏でけり

どこからか寅さんの声夏来たる

短歌

森下 延子(諏訪形)

大型の耕耘機操る八十二歳
杖など要らぬ壮年のよう

タワシ一個に広きフロア案内し
くるるホームセンターの笑顔の
店員

四つの葉にわずかときめく心あり
群れるクロバーを刈りいる我に

ヒトリシズカ群れ咲き盛る
我が庭の春も忽ち去りてゆくらん

二年振りの長期旅行に葉の量
三倍となるリュックを背負う

声

上新井区民ふれあいツアー

5/9

上新井区民ふれあい ツアーに参加してみよう

佐藤 綾花

上新井区民ふれあいツアーで、潮干狩りに行きました。みんなバスに乗って行きました。友達と、となりどうしだったので着くまでの間、おしゃべりをしたり、ゲームをして楽しくすごせました。初めに魚屋に行きました。そこには1mぐらいのとても大きいカニや今まで見たことのないいろんな種類の魚がいて、びっくりしました。次にお昼ご飯を食べに行きました。そこはバイキングだったので、いろんな食べ物を自分で選んで食べられたので、楽しくおなかいっぱい食べました。食事が終わってからは、わたくしが今回の旅行で一番楽しみにしていた潮干狩りへ行きました。海岸にはたくさんの方がいました。手を入れただけで小さい貝や大きい貝、へんな貝もよりの貝をひろうことができました。とつた時には貝がとじてふくろの中に入れて少しつと、貝が開くのがおもしろいと思いました。私は、今回が初めてだったので、ひろえるか心配でしたが、ふくろの半分ぐらいの貝をひろえてとてもよい体験ができました。またみんなと行き、もっと多くの貝がひろえたらいいなあと思います。

しおひがり

深津 はなり

この前、愛知の方まで、しおひがりに行きました。大人数だったので、友達もいっぱいいました。バスの中では、おかしを食べたりしていきました。

まず、お土産として、魚売場へ行きました。私は水そうに入っているカニを友達と見てました。バスにゆられていっているうち、お昼になった。やきたてワッフル、パスタなどいろいろなものをたべ、気がつけば、もうすぐしおひがりで。ドキドキしながらすなはまへいった。すなはまはすでに人でいっぱいだった。とりあえず、すなをほったらいいいとれた。しかも、ちっちゃいカニもとれた。が、アサリをエサだと思っているので、最初ずりりととっていたので、最初は100個ぐらいか...と思っていましたが、そうぞう以上にとれた。

去年もしおひがりだったけど、どうせなら来年も、しおひがりに行きたいです。



松川町消防団ふれあい感謝祭

日ごろの消防団への協力への感謝をこめて松川町消防団ふれあい感謝祭が5月31日(日)に上片桐改善センターを会場に開催されました。



2022年

最近、公民館活動を行う中でよく耳にする言葉に「子どもたちが参加できる活動を」がある。

私が子どものころは、学校の部活動で大会等に参加する時は、先生の指示のもと自分達で電車やバスに乗って会場まで行き、自分達で帰ってきた記憶がある。今は大会の数も多く保護者会等で親達を送迎し応援やコーチもする、子どもにとっては恵まれた環境だと思う。

塾に通っている子どももいるし、親は会社勤めだからと言っても、夜勤や三交代勤務・サービス業等で土日が休日でない人もいます。言いたい事は、子どもも親も昔に比べると忙しい事です。だから何もしないでは無く、押付けでは無い出来る事を出来るだけ実施する方向で、より多くの意見を聞き検討していけば良いのではないのでしょうか。

唐澤 敏行

公民館報
「まつかわ」
第 620 号
平成27年 6月15日
発行所 松川町公民館
責任者 矢澤 登
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)
再生紙を使用しています。